

富士山が だんだん高くなった話

昭和五十五年八月五日号



駿河の富士と下田の富士は、きょうだいでした。下田富士が姉さんで、駿河の富士は妹です。

とても仲良しで、小さい時からかばいあつてきました。姉さんの下田富士は、いろいろ

と妹のめんどうをみて、雨が降ればからかさ雲をかけてやり、風が吹けば長い雲の手をのばしておおつてやりました。

やがて、年がたつにつれて駿河の富士は、だんだん美しくなりました。

長いすそをふもといっぱいにひろげ、朝日夕日にかがやく頬は紅色に染り、そのあでやかさは誰もかきません。

それにひきかえ姉の下田富士の方は、丸くふくれたポタモチのような顔で美人ではありませんでした。妹の駿河富士に比べて自分が美人ではないことに気がついた下田富士は、娘心にそれがたまらない悲しみになって、だ

んだん妹と顔をあわせなくなりました。

そして、とうとう伊豆と駿河の間に大きな
びょうぶを立てて、妹がのぞいても見えない
ようにしてしまいました。そのびょうぶが天
城山です。妹は悲しそうに、「お姉さま／伊豆
のお姉さま／どうかなさいましたの。お顔を
みせてください」と叫びながら、つまさきで
立って背のびをしました。でも、下田富士は
妹の声を聞きながら、ますますからだを縮こ
めて顔をみせません。



妹の駿河富士

「お姉さま／お姉さま」と妹は背のびをし、
姉は隠れよう隠れようとかからだを縮こめまし
た。そのため下田の富士はますます背が低く
なり、逆に駿河の富士はどんどん背が高くな
り、とうとう日本一の高さの山になったとき。

メモ

富士山の高さは三千七百七十八メートル、この高
さをみななるう富士山のようにとくろ合わせ
で覚えておくと忘れないよ。姉さんの下田富
士は百八十七メートル、下田駅の北西に見えるトシ
ガリ山です。

「ぶじぶ」とはアイヌ語で火をふく山、語源で
は、ゆるやかな傾斜のある山のことを「ぶじぶ」
といいます。このいづれから富士山といわれ
るようになったのかは分かっていません。